

飼料用米 多収品種「アキヒカリ」及び「夢あおば」の栽培暦

	月	3			4			5			6			7			8			9			10			11				
		旬	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下				
アキヒカリ	栽培管理	耕耘 堆肥散布			播種 浸種 種子消毒			育苗	代かき 基肥 施用	移植	← 除草剤散布 →			穂肥	← 紋枯病等防除 →			← カメムシ防除 → ※出穂以降に農薬を散布する場合は、 留意すべき事項がありますので、 【病害虫防除】の欄を御参照ください			収穫	秋耕						耕耘		
	主要な生育 ステージ													幼穂 形成期	出穂期 7/20頃						成熟期	堆肥散布								
	水 管理								湛水管理			軽い 中干し	低温時は深水管理 湛水管理			間断 かんがい														
夢あおば	栽培管理	耕耘 堆肥散布			播種 浸種 種子消毒			育苗	代かき 基肥 施用	移植	← 除草剤散布 →			穂肥	← 紋枯病等防除 →			← カメムシ防除 → ※出穂以降に農薬を散布する場合は、 留意すべき事項がありますので、 【病害虫防除】の欄を御参照ください			収穫	立毛 乾燥	秋耕			耕耘				
	主要な生育 ステージ													幼穂 形成期	出穂期 8/1頃						成熟期	堆肥散布								
	水 管理								湛水管理			軽い 中干し	低温時は深水管理 湛水管理			間断 かんがい														

注1) 安房・東京湾沿岸南部地域は5月上旬から移植可 注2) 各栽培歴のステージは、平成27～29年の千葉市及び香取市の平均です

**【育苗】**

◆**種子消毒**  
・種子消毒は必ず実施します。糸状菌による苗立枯病、ばか苗病、細菌病を防ぐために、徹底して行いましょう。

◆**浸種**  
・水温は10～15℃で、積算温度120℃を目安に行いましょう。

◆**播種**  
・主食用米と同様に催芽を行い、ハト胸状態として播種しましょう。  
（「夢あおば」は粒が大きいので、主食用品種より1割程度多く播種しましょう）

◆**育苗管理**  
・育苗器による出芽を基本とします。  
・4月下旬から5月に育苗する場合は、高温（床土30℃以上）とならないように注意しましょう。

**【移植】**

◆**移植時期**  
・「アキヒカリ」、「夢あおば」ともに、5月中旬以降に移植しましょう。  
・両品種とも耐冷性が弱いため、早期に移植すると幼穂形成期から出穂期間の低温感受性期に低温に遭遇し、障害型冷害により減収するリスクが高まります。

◆**栽植密度**  
・両品種とも、坪当たり55株（株間20cm）前後としましょう。  
・植付本数は、4～6本/株としましょう。

◆**疎植栽培**  
・穂数が確保しやすい窒素肥沃度が高い圃場では、疎植栽培も可能です。  
・しかし、植付本数を大幅に削減したり、穂肥を省略した場合には、収量が減少しますので、植付本数は4～6本/株とし、穂肥は、生育に応じて施用する必要があります。

**【水管理】**

出穂期前3週間、出穂期後2週間は湛水状態、その後収穫1週間前までは間断かんがいとする等、基本的な水管理は主食用米と同様とします。  
・飼料用米生産では強度の中干しは必要なく、根への酸素供給を図るため、軽い中干しにとどめます。  
・幼穂形成期から出穂期までの期間が低温となった場合には、障害型冷害防止のため、深水管理により保温に努めます。

**【収穫・乾燥・調製】**

◆**成熟期の目安**  
・「アキヒカリ」は出穂期後約40日、「夢あおば」は出穂期後約45日です。  
・「夢あおば」では、成熟期から1週間程度経過し、籾水分を低下させてから収穫する立毛乾燥が可能です。

◆**収穫時の注意点**  
・コンバインの負荷が大きい場合は、刈り取り条数を減らす、又は刈り取り速度を遅くします。

◆**籾すり**  
・粒の大きい品種ではロール幅を広げるとともに、選別部が回転式の籾すり機では玄米と籾の選別精度が劣るため、揺動式の籾すり機を用います。

**【施肥】**

◆**堆肥施用**  
・土の肥沃度を向上させるため、家畜ふん堆肥を施用しましょう。  
・家畜ふん堆肥を施用した場合は、りん酸、加里成分の施用は省略し、安価な窒素単肥のみの施用にできます。また、窒素成分で3kg/10a程度減量できますので、肥料代の低減にも繋がります。（牛ふん堆肥の場合は連用4年目以降に減量できます）  
※10aあたり施用量の目安 牛ふん堆肥1～2t、豚ふん堆肥300～1,000kg、鶏ふん堆肥250kg

◆**基肥**  
・主食用米よりも多肥で栽培し、生育期全般にわたって、窒素の肥効を持続させることが重要です。

◆**穂肥**  
・幼穂形成期に、窒素成分で3kg/10aを施用します。  
・幼穂形成期の前に葉色が極端に低下した場合は、穂肥の施用を早めるか、中間追肥を施用しましょう。

品種名	アキヒカリ	夢あおば
基肥窒素	4kg/10a(粘質土の場合) 6kg/10a(壤質土の場合) 9kg/10a(砂質土の場合)	6~7kg/10a(粘質土の場合) 9kg/10a(壤質土の場合) 12kg/10a(砂質土の場合)
穂肥窒素	3kg/10a	3kg/10a

**【病害虫防除】**

◆**いもち病**  
・必要以上の多肥栽培はいもち病の発生を助長するので避けます。

◆**紋枯病**  
・常発圃場では予防的な防除を行う。また、茎葉が繁茂し、発生しやすい条件となるため、発生状況により防除します。

◆**斑点米カメムシ**  
・主食用品種と同様に防除します。特に、出穂期が周囲のほ場より早い、又は遅いほ場は加害を受けやすくなります。

**【雑草防除】**

・除草剤は、「稲」に登録のある薬剤を使用し、使用基準を遵守します。  
・「タカナリ」「オオナリ」「モミロマン」「ミズホチカラ」では、「ベンゾビシクロン」「テフリルトリオン」「メソトリオン」による薬害が発生しますので、これらの有効成分を含む薬剤は散布しないようにします。

※**出穂以降の防除における留意事項**

①飼料用米について、出穂以降に農薬の散布を行う場合には、家畜へは籾すりをして玄米で給与します。  
②籾米を家畜に給与する場合は、出穂以降の農薬の散布は控えます。  
③これらの低減対策を要しない農薬の成分もあります。  
詳細は、「飼料として使用する籾米への農薬の使用について」（令和2年1月21日、農林水産省、ホームページ [https://www.maff.go.jp/j/chikusan/sinko/lin/l\\_siryo/attach/pdf/020121\\_momimai.pdf](https://www.maff.go.jp/j/chikusan/sinko/lin/l_siryo/attach/pdf/020121_momimai.pdf)）を御参照ください。